

和歌山県野菜振興計画（令和3年度～令和7年度）

策定の根拠法令

なし

現状と課題

① 野菜の生産状況

直近10年で見て、産出額は年次差が大きいが、やや増加傾向
栽培面積は、減少傾向であるが、直近5年は横ばいで推移



品目	H25	H30	H30/H25
にんにく	15	24	160.0
にんじん	58	61	105.2
たまねぎ	115	119	103.5
ブロッコリー	140	140	100.0
キャベツ	219	217	99.1
だいこん	149	147	98.7
はくさい	150	139	92.7
ミニトマト	51	51	100.0
きゅうり	68	66	97.1
さやえんどう	327	317	96.9
トマト	56	53	94.6
なす	54	51	94.4
ピーマン	20	18	90.0
ししとう	19	17	89.5

② 施設栽培の拡大と施設の高度化

県単事業のメニュー化によりパイプハウスの40%で高度化できたものの、
目標の50%には届いていない

③ 施設栽培の省エネ化

燃油価格は依然として高止まりで、施設園芸の経営を圧迫

④ 露地野菜の振興

土地利用型の露地野菜において、栽培面積の減少が進んでいる品目がある

⑤ 県オリジナル品種の育成と普及

「まりひめ」は県内のいちご作付面積の62%を占め、農家の
所得向上に寄与した
今後もオリジナル品種の育成を継続する必要



いちごの粗収益比較 (R1年産)

	単価 (円/kg)	出荷量 (kg/10a)	粗収益 (千円/10a)
まりひめ	1,762	4,000	7,048
さちのか	1,464	3,500	5,124

今回計画の主なポイント

- 施設の高度化・高品質化・省エネ化など高収益対策の推進
- スマート化・共同化など省力化対策の推進

今回計画の目標

	平成30年度	令和7年度 (目標)
栽培面積 (ha)	2,042	2,091
産出額 (億円)	163	170

今回計画の概要

1 施設野菜の振興

- 施設の高度化の推進と施設園芸の拡大 **Point**
- 高度な環境制御システムの導入・スマート化の推進 **Point**
- 施設栽培の省エネ化の推進 **Point**

2 露地野菜の振興

- 共同育苗の推進、機械化一貫体系導入等による規模拡大 **Point**
- 業務用野菜の産地化推進
- 生産量が少ない夏秋期の果菜類の生産強化

3 県オリジナル品種の育成と普及

- 新たな品種の育成
- 品種特性を生かしたブランディングと販売の拡大

4 担い手の育成・確保

- 就農モデルプランの発信による新規就農者の育成・確保
- 県農林大学校における農業系高校との一貫教育の構築
- 高度な生産技術の導入や省力化による大規模経営等を行う法人や協業組織の育成

5 経営基盤の強化

- 新規就農者や意欲的な担い手への農地集積の推進
- 園芸施設共済、収入保険等セーフティネットの活用促進

6 多様な販売チャネルへの対応

- 加工業者や中食事業者など、取引先に対応した生産・出荷の強化
- 直売所向けの生産やeコマース活用によるオンライン直売所などの取組の推進
- 予冷設備・鮮度保持出荷資材の活用推進

7 安全・安心で環境にやさしい野菜生産の推進

- GAP、有機JAS、特別栽培農産物、エコファーマーの推進
- 農業由来廃プラスチック適正処理と排出抑制による環境負荷の軽減推進